

動脈血流比の著しい増加を認めた。

〔総括〕 RI アンジオグラフィは限局性疾患のみならず瀰漫性疾患時の血行動態の変化を容易に評価しうるばかりでなく、肝硬変時の肝細胞機能ならびに予後の推定で把握しうる検査法といえよう。

16. 興味ある症例供覧

今枝 孟義 福富 義也 仙田 宏平
(岐大・放)

ここ8年間の症例の積み重ねから興味ある症例を供覧した。

(症例1) 11歳, 男子 先天性右肺動脈欠如と動脈管開存症の合併. ^{131}I MAA 肺シンチ施行日 '68・3・21. 右肺への血流分布を全く認めなく手術にて確認した. 文献による agencsis の集計だと98例の報告をみるのみである (Pool, P.E. et al.: Am. J. Cardiol. 10:706 '62).

(症例2) 4歳, 男子 単心室, 内臓逆転症および多脾症の合併. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ MAA 肺シンチ, ^{203}Hg -MHP 脾シンチ, ^{198}Au コロイド肝シンチ施行日 '48・11・1, 6, 7. 肺シンチで脳・腎などの描出を, 脾・肝シンチで位置異常を認めた. 単心室の症例は非常に稀でありその大半が生後1年以内に死亡している。

(症例3) 11歳, 女子 甲状腺癌(乳頭状腺癌) ^{131}I Na 甲状腺シンチ施行日 '69・10・15. 右葉に Cold nodule を認める以外, その他の機能検査に異常を指摘しえなかった. 右葉切除後, 現在まで外来通院ではっきりした転移巣もなく健在である. 小児甲状腺癌の報告は少なく, 本邦において39例をみるのみである〔大島統男ら: 日医放会誌, 32(8), 684'72〕

(症例4) 65歳, 男性 胆石症と胆嚢膿瘍の合併. ^{67}Ga citrate 腫瘍シンチ施行日 '72・6・25. 胆嚢膿瘍は ^{67}Ga によって濃く描出された. 文献上, 3例の報告をみるのみである. (Frederick Lomas, M.R.A.C.P. et al. New Engl. J. Med. 286 1323

'72, Radiology 105, 689 '72).

(症例5) 25歳, 女性 総胆管の巨大拡張症. 産後急速に腹部膨満を来し, 腫瘤の大きさは胎児大(妊娠末期)ほどにもなった. ^{131}I -RB 肝シンチ施行日 '73・4・23. 静注48時間後のシンチで腹部全体に RI activity を認めた.

(症例6・7) 64歳, 男性 グラウィツ腫瘍: 68歳, 女性 胸内甲状腺腫(濾胞性腺癌). 共に左右両側に multiple defect を認め1側から他側への転移例であった.

17. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -ピロリン酸による外傷患者の骨スキニング

飯森 又郎

(石川県白山病院)

1971年 Subramanian らによって $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -リン酸化合物が開発され, 被曝線量の大幅な減少, 優れたスキャン画像と使用に便利なキットの市販によって, 転移性骨腫瘍に対する骨スキニングは爆発的に普及するに至っているが, 未だ $^{99\text{m}}\text{Tc}$ リン酸化合物による外傷患者の骨スキニングの報告は全く見られない。

124名の外傷患者(自動車事故)に合計166回の骨スキニングを実施した. 第1ラジオアイソトープ研究所製のテクネピロリン酸キットを用い, 1人 10mCi 静注4時間後にシンチカメラにて撮像した.

X線写真上明瞭に骨折が認められた症例では41例全例に $^{99\text{m}}\text{Tc}$ ピロリン酸の集中陽性像を認めた. 逆にスキャン上異常集積像(一)のものに X線写真上骨折像を認めることはなかった.

X線写真上骨折像を認めなかった胸部, 手足などの打撲症でも, 25例において明瞭なスキャン集積像を認めた. 外傷性頸椎症40例では全く異常スキャン所見は得られなかった.

本法の異常指摘度は極めて高く, X線写真上骨折診断のむつかしい部位(肋骨, 肋骨一肋軟骨附着部, 胸骨, 手掌骨, 足趾骨など)の検索に有用